

令和7年度カスケード及びその 周辺の管理について

中川悠・荒木大蔵・西内良

はじめに

カスケードでは、鉢・プランター・大型コンテナ・ハンギングバスケット、花壇（委託花壇及び自主花壇）・立体花壇（グローバル）を使用して季節の草花等を常時展示している。

植栽について

カスケード周辺から正面ゲート、周辺花壇に植え付けた植物の種類および展示期間は表1～表4の通りである。

春季

4月は前年度の冬に引き続きパンジーやキンセンカ、チューリップ等を中心とした展示を行った。花色は、ピンクや黄色といった暖色を多めに用いて暖かさを演出し、アクセントとして白や寒色も使用した。

パンジーについては、昨年まで使用していた‘よく咲くスマイル ソーダ’の花付きが良過ぎて、花がら取りに大きな労力がかかることから、代替品種として‘よく咲くスマイル ブルーフィズ’を導入した。当該品種は、花つきが良すぎたり、茎が伸びすぎたりすることなく、花色も良いため、今後も使用していこうと思う。また、このほかに‘よく咲くスマイル カシス’も新しく導入した。この品種は、‘よく咲くスマイル ソーダ’ほどではないが、他の色に比べて花つきが良く、やや伸びる傾向があった。加えて、花色が濃い紫と暗いため、花壇等で大面積に植栽するより、寄せ植えでアクセントのように使用する方が向いていると考える。

ゴールデンウィーク以降は、パンジーやキンセンカ等の冬から展示を続けたものを抜き取り、ペチュニアやベゴニア、マリーゴールド、トレニアを植え付けた。また、これまで使用したことのない品種である、ペチュニア×カリブラコア‘ビューティカル キャラメルイエロー’、トレニア‘カタリーナ アメジスト’‘カタリーナ ラムレーズン’を導入した。これらは、夏季も大きく入れ替えることなく、展示を続けた。

夏季

7月上旬にはデュランタ、ランタナを追加で展示し、8月上旬には大鉢のマリーゴールドを栄養系コリウスと入れ替えた他、タイタンビカス（宿根性のハイビスカス属 種間交雑種）も展示を始めた。また、上記の他に、今年度新しく導入したオオボウシバナを7月上旬から、ニコチアナ‘パフューム’を7月下旬から展示を行った。これらはどちらも種から育苗したもので、播種時期は、オオボウシバナは3月中旬、ニコチアナは4月中旬である。

昨年度導入し、きれいなドーム状に生育したペチュニア×カリブラコア‘ビューティカル’シリーズは、鉢への植え替え直後から中心部の枝があまり伸びず、株の形がドーナツ状になってしまい、形が良くないままとってしまった。枝があまり伸びないため、一度形が崩れてしまうと回復が難しいようである。

グローバル下の自主花壇は、例年同様‘スーパーチュニア ビスタ シルバーベリー’のみ植栽した。この花壇は、前年度の冬から春の植物への植え替えと、春から夏の植物への植え替えのタイミングで片方ずつ深耕とバーク堆肥、石灰、8-8-8のすき込みを行った。これにより、作土層が深くなって花壇の水はけが改善され、令和5年度・令和6年度と連続で起こっていたスーパーチュニア ビスタ シルバーベリーの枯死が見られなくなり、秋の植え替えまできれいな状態を保つことができた。

イベント広場北花壇には、5月中旬に播種して育苗したラッカセイを7月中旬に植え付けた。

秋季

9月中旬から下旬にかけては、大鉢のアンゲロニアやベゴニアをコスモスとジニア‘プロフェュージョン’に植え替えたほか、トレニアやペチュニアをテランセラ (*Alternanthera ficoidea*) に植え替えた。さらに、ジニア‘プロフェュージョン’のみの鉢やアルテルナンテラ‘パープルプリンス’のみの鉢も作成して展示した。また今年度はジニア‘プロフェュージョン ダブルディープサーモン’を新しく導入した。この品種は、これまで使用してきたジニア‘プロフェュージョン ダブルゴールデン’‘プロフェュージョン ダブルイエロー’と生育加減について大きな差は見られないが、花の色落ちが激しく、植え付け時にはきれいなサー

モンピンクであったものが薄い黄色のようになってしまうことも多かった。なお、色落ちに関しては、鉢ごとに異なることから、気温などではなく、栄養状態が関係しているのではないかと思われる。

グローバル下花壇については、9月中旬に‘スーパーチュニア ビスタ シルバーベリー’を抜き取り、ジニア‘プロフェュジョン ダブルゴールド’と‘プロフェュジョン ダブルディープサーモン’を植え付けた。

冬季

今年度は昨年度ほど気温が高くなく、11月上旬から少しずつ冬物の植物への植え替えと鉢の入れ替えを進め、12月中旬には全て冬物となった。

使用した植物は、パンジー「よく咲くスマレ」シリーズ、キンセンカ、クリサンセマム・パルドサム‘スノーランド’、シロタエギク、プリムラ‘アラカルトシュシュ’、チェイランサス‘シュガーラッシュ’、ストック、チューリップで、これらを用いて大鉢や寄せ植えを作成した。なお、今年度は鉢用に購入する苗数をこれまでより減らしたため苗が少し不足し、追加で購入した。

昨年度新しく導入した‘シュガーラッシュ’はストックと同様の使用が可能で、ストックよりもボリュームが出て開花期間も長いため、今年度も使用することとした。

また、今年度は‘よく咲くスマレ ロゼ’を新しく導入した。この品種は花径が同シリーズの他の色に比べて少し大きいため、今後の花付きがどうか観察していこうと思う。花色については、赤と白のツートンカラーでアクセントとなりつつも柔らかい雰囲気を演出できるため、使用しやすかった。

夏から展示を始めたニコチアナ‘パフェーム’は、花茎の切り戻しと追肥を行いながら展示を続け、12月上旬に展示を終了した。なお、現在(12月中旬) バックヤードの屋外で管理しているが、開花し続けており、寒さによるダメージはあまり見られない。

グローバル下花壇は、11月中旬にパルドサム‘スノーランド’とシロタエギクへの植え替えを行った。昨年度はこの時期の植え替え時に深耕とバーク堆肥のすき込みを行ったが、今回は土の量が多く柔らかかったことからバーク堆肥の追加は行わず、石灰と元肥(8-8-8・ようりん)を混ぜ込むのみとした。

表1 大型コンテナ類(据え置き)の展示植物と展示期間

植物名	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
アカンサス・モリス+ヘデラ																									
アメリカテマリシモツケ‘ディアボロ’																									
オリーブ																									
モクレン																									
ハツユキカズラ+草花寄せ植え																									
ワイヤープランツ																									
ハツユキカズラ																									
斑入りツルニチニチソウ																									
チェリーセージ																									
キンギョソウ‘トウイニ’																									
パンジー‘よく咲くスマレ’																									
ゼラニウム‘カリオペ ダークレッド’																									
ペゴニア‘ビッグ’																									
ペチュニア‘タイダルウェーブ シルバー’																									
ペチュニア‘スーパーチュニアビスタ’シリーズ																									
トレニア‘カタリーナ’シリーズ																									
フレンチマリーゴールド‘デュランゴ’																									
栄養系コリウス																									
タイタンピカス																									
デュランタ																									
ランタナ																									
アンゲロニア‘セレニータ’																									
ジニア‘プロフェュジョン’																									
コスモス‘センセーション’																									
テランセラ																									
チューリップ																									
ストック																									
キンセンカ‘コーヒークリーム’																									
チェイランサス‘シュガーラッシュ’																									
クリサンセマム・パルドサム‘スノーランド’																									
プリムラ‘アラカルトシュシュ’																									

